



ニュースレター創刊第1号をお届けします



愛知県名古屋市に 開講しました

2021年9月にサービスインしましたこどもICT教育支援センターですが、2022年1月からプログラミング講師育成 専用システム「できるクラウド」でScratchの学習を進めていただきました教室様が開講されました。



ネスコムICT教室 森先生

プログラミング教室開講の準備にあたり、他のフランチャイズ事業者にもお話を聞いておられた際、塾長の森先生が受けた『お手軽で、教える側は知識がなくても、子供たちは楽しく学んでいってくれるので大丈夫ですよ〜』という説明に違和感を覚え、なかなか開講への一歩を踏み出せずにいたのだそうです。

そんななか『教える先生側がまず学ばないといけない』という、当こどもICT教育支援センターに出会い、『できるクラウド』でのお勉強、『まなほライセンス』の取得、『まなほクラウド』のご利用と進めていただき、プログラミング教室を開講いただきました。

学生時代にBASICやCOBOLをかじっていた森先生、『ビジュアルプログラミングなんてと軽く考えていましたが、意外と引っかかる部分も多くてかなり勉強になりました』とのこと。

「できるクラウド」での学習中も自ら追加の課題を進めるなど非常に意欲的に進捗いただきました！

引き続き私たちと一緒に、プログラミング教育に取り組んでまいりましょう！

じつは…まだまだ続きます！

現在、2022年2月から「できるクラウド」で学習中の先生方がおられます。

順次プログラミング教室を開講のご予定ですので、当ニュースレターでも順次ご紹介させていただきます。



ご覧になったこと ありますか？

こどもICT教育支援センターの
教室経営コラム

<https://iesk.net/column>

は、もうご覧になられたことがありますか？他所ではなかなか教えてもらえない、かなり踏み込んだ内容がコラムとして公開されています。

ニュースレターでも毎号コラムをご紹介予定です！👉👉👉



こんな人が書いて お届けします



こどもICT教育支援センター サービス運営責任者の吉永順一（よしながじゅんいち）です。

メールでご質問をいただいたり、個別相談のご依頼をいただいた方の中にはご存知の方もおられるかもしれません。

以後お見知りおきをいただけますと幸いです。

かなりの筆不精で遅筆ではありますが、みなさんに有益なお話やちょっとお得なお話、「なるほどー」なお話など、お届けできるように頑張ります。

第1号のニュースレターはいかがでしたでしょうか？

早くも第2号のネタを考えなくては…

Scratchの次はこれ！長く学ばせるカリキュラムを

👉プログラミング教室で、何を教えますか？

👉Scratchを教えている他の教室と、

どう差別化すればいいのでしょうか？

👉Scratchの次は、何をすればいいのでしょうか？

つづきはコラムをご覧ください

<https://iesk.net/column/575>



プログラミング 教育ニュース

2024年度入試から国立大学入試に新科目『情報』が必修化



学校教育におけるプログラミング教育の必修化については、皆さまもお知りのことかと思えます。

2020年に小学校で、2021年に中学校と順次必修化が進められ、本年2022年4月からはよいよ高校でも『情報』の履修が必修化されることになりました。

『情報』を入試科目として取り扱うべきかについては長らく議論が進められてきましたが、さる1月28日に開催された国立大学協会総会において、2024年度大学入試共通試験より、正式に導入されることも決定されました。

”

全国86の国立大学で構成される国立大学協会は1月28日、2024年度実施の国立大学入学試験から「情報」を必須科目の一つにする方針を発表した。これまでの国語、英語、数学、理科、社会に加えて6教科8科目制になる。

ITmedia

2022年1月28日付リリース

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2201/28/news157.html>

これにより、情報教育のニーズがますます高まることが予想されます。しかし学校現場における『情報』は他教科と兼任

にて教鞭をとる教員が大半であり、まだ指導体制が十分とは言い難いのが事実です。そのような情勢において、民間のプログラミング教室への期待が高まっていくことは確かです。

私たちと一緒に、プログラミング教育に取り組まれる企業さまが増えていかれることを願っております。

教室の広報について 考える

『SEO対策は十分ですか？ その1』

皆さま、SEOという言葉は聞かれたことがありますか？

SEOとは“Search Engine Optimization”の略で、日本語では「検索エンジン最適化」と訳されることが多いようです。

ネットユーザーが特定のキーワードを入力した時に、検索エンジン上でできるだけ上位に表示させるような工夫をWEBサイトに行う。そのことをSEOと言います。



例えば、学習塾を探しているお客さまは、ほぼ例外なく「地域名(町名・駅名など)」+「塾」+「学年(小学校・中学校・高校)」などの組み合わせで、まずは情報を集めようとされます。

その時に、検索結果の1位に表示された塾と10位に表示された塾、皆さまなら先にどちらをクリックされますでしょうか。当然1位をクリックされますよね。

生徒募集を順調に進めるためには、SEO対策を無視することはできません。

ただ検索エンジンも年々進化しています。

10年ぐらい前までは小手先だけのテクニックで検索順位を上げる手法はいくつも存在していましたが、今ではそういった「攻略」はなかなか通じません。

検索結果の上位表示にとって大事なことは、基本的なサイト構造をしっかりと整えるということです。

すぐにできる対策として、まずは以下のようなことを点検されて見ることをおすすめいたします。

チェック項目①

サイトの中に、お客さまが検索に用いる用語が適切に盛り込まれているか？

「地域名」「学習塾」「募集対象学年」が適度なボリュームで記載することを心がけましょう。過度に記載が多くてもいけません。あくまで文章としてスムーズに読めるボリュームで、適度に盛り込むことが大事です。

チェック項目②

ページタイトルが検索を意識したものであるか？

もったいないことに「〇〇進学塾」程度のページタイトルしか記載されていないサイトを見かけることがあります。せめて「〇〇進学塾(☆☆町) 中学生・高校生の入試対策」などを書いておきたいものです。

長くなりましたので、さらなる対策法については次号でお話しさせていただきます。



[この記事の執筆]

進藤 整是(しんどうまさし)

(株式会社キャスト・ワークス代表)

ニュースレター第2号は
4月上旬頃にお届けの予定です

